



東日本大震災に係る被災地支援活動記録集

～平成23年3月11日から2年間の取り組み～

平成25年3月
名古屋市

「被災地支援活動記録集」の発刊にあたって

「市長、被災地の自治体をパッケージで支援しましょう！」震災直後に職員から提案を受けたことが始まりでした。震災により甚大な被害を受けている東北地方のために何か支援をしたい、そんな思いが伝わってきました。そこで私から「他の都市でそんなことやったことはあるんきゃ。ほんでどこを支援するの。」と尋ねると、「前例はありません。支援先は自分たちで探してきます。」とのことでした。

3月19日から3度にわたって先遣隊を派遣しましたが、確か4月3日の夜、被災地から戻った住田副市長をはじめとした職員の面々から「ただいま帰ってきました。市長、陸前高田市を応援しましょう！」との提案を受けました。被災地を思う職員の熱い思いは十二分に感じました。その瞬間、私も腹を固め、すぐさま全庁で陸前高田市を応援することになりました。

また、「市長、被災した中学生が修学旅行にも行けず、不自由しているので、被災した中学生を2泊3日で名古屋に招待し、笑顔の1つでもプレゼントしましょうよ！」という提案もありました。そこで私が「そりゃええことだ。sonだけどお金はどうするの。」と尋ねると、「市長、いつも寄付でやればいと言っているではありませんか。寄付でやりましょう！」と提案を受け、私も街頭に立ち、市民の皆様に寄付を呼び掛け、結果、大勢の市民の皆様や企業から、たくさんの寄付等をいただくことができ、大勢の中学生を招待することができました。

さらに、岩手・宮城・福島の三県の知事の要請を受け、各県1億、「応援します！東北のみなさま。名古屋市民」とのステッカーが貼られた96台の電気自動車・四輪駆動車と2台の高規格救急車を被災三県に送りました。

昨年1月に陸前高田市からの帰りに宮城県気仙沼市を視察したときの事です。

「名古屋市民」と書かれた泥まみれの車が走っている姿をみました。少し誇らしく感動を覚えるとともに、東北の皆様を応援しようと思う名古屋市民の皆様の気持ちを確実に届けさせていただけたということを実感しました。そして、それは今も泥まみれで東北の山々や被災地の各地を駆け巡っています。

これら様々な支援の取り組みは、名古屋市役所だけでなく、議会も応援してくれて、たくさんの企業、そして何よりも、226万名古屋市民が市の取り組みを理解し、後押ししてくれたことが本当に嬉しく思いました。

日本は災害列島、いつ何時大災害に遭遇するかわかりません。名古屋市も昭和34年の伊勢湾台風によって、死者・行方不明者5千人、家屋の全壊・流出4万棟という大被害を受けました。そして、今、南海トラフ巨大地震への対策が急務です。

日本の先人たちは、降りかかる幾多の困難に対し、過去の文献を紐解き、またその時どきの知見を集めて苦境を乗り越えてきました。

その意味で、震災から2年という区切りの時期に、これまでの名古屋市の被災地支援活動の取り組みを記録に留め、明日なのか、100年後なのかわかりませんが、いずれ起こり得る大災害に備え“その時”の対策を検討する際の参考として残すことは意義のあることだと思います。

被災地は、未だに多くの方が仮設住宅での避難生活を余儀なくされるなど大変厳しい状況が続いています。しかし、一昨年、昨年と名古屋に来てくれた陸前高田の中学生の屈託のない笑顔と「陸前高田のまちは必ず僕たちが復興します」との涙ながらの決意の言葉を思い出すとき、この苦難も必ず乗り越えられると確信しております。

名古屋市といたしましては、被災地の一日も早い復興を願い、25年度も被災地支援の取り組みを継続してまいります。市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平成25年3月

名古屋市長 河村 たかし

目 次

I	東日本大震災の概要	
1	東日本大震災の概要及び被害状況	1
2	東北3県（岩手県・宮城県・福島県）の被害概要	2
3	陸前高田市の被害概要	3
II	陸前高田市“丸ごと支援”の経緯と特徴	
1	陸前高田市“丸ごと支援”決定の経緯	4
2	陸前高田市へ職員を派遣するまでの経緯	10
3	陸前高田市“丸ごと支援”の特徴	16
III	名古屋市の被災地支援活動の概要	
1	陸前高田市等への職員派遣	19
2	陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクト	24
3	陸前高田市への産業支援	37
4	陸前高田市への医療支援	41
5	被災地支援の経験を市民等へ還元していく取り組み	43
6	被災者の受け入れ支援	47
7	その他の陸前高田市への支援	50
IV	平成23年度派遣職員座談会記録	52
V	東日本大震災に係る被災地支援の取り組み経過	
1	東日本大震災発生から本市の被災地支援活動の経緯	66
2	派遣職員名簿	69
VI	その他の東日本大震災に係る被災地支援活動の概要	75

I 東日本大震災の概要

1 東日本大震災の概要及び被害状況

平成 25 年 2 月 26 日 緊急災害対策本部（政府設置）発表資料（抜粋）

(1) 地震

ア 地震名

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震

イ 発生日時

平成 23 年 3 月 11 日（金） 14 時 46 分

ウ 震源及び地震規模（推定）

三陸沖（北緯 38.1 度、東経 142.9 度、牡鹿半島の東南東 130 km 付近）

深さ 24km、モーメントマグニチュード Mw9.0

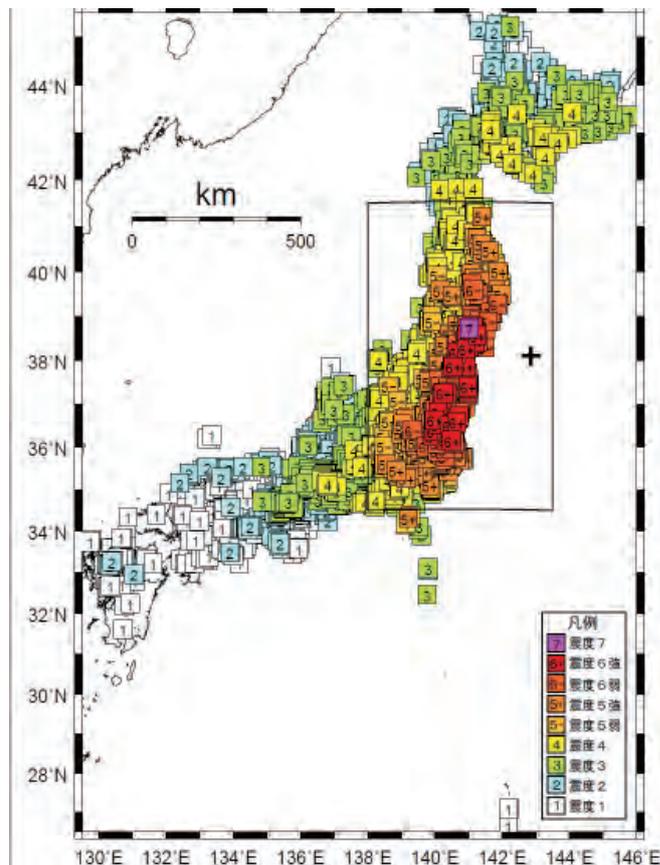
エ 各地の震度（震度 6 弱以上）

震度 7 宮城県北部

震度 6 強 宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、
栃木県北部・南部

震度 6 弱 岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、
埼玉県南部、千葉県北西部

〈参考〉 各地の震度分布図（気象庁発表資料）



オ 津 波

(ア) 津波警報

3月11日14時49分 津波警報（大津波）発表

3月13日17時58分 津波注意報全て解除

(イ) 津波の観測値（検潮所）

宮古	最大波	15:26	8.5m以上
大船渡	最大波	15:18	8.0m以上
石巻市鮎川	最大波	15:26	8.6m以上

(注) 上記は沖合での観測地であり、沿岸地では津波はさらに高くなる。

(2) 被害状況

平成25年3月8日 警察庁緊急災害警備本部発表資料抜粋

ア 人的被害

区 分	人 数 (名)
死 者	15,881
行方不明者	2,668
負 傷 者	6,142

イ 建築物被害

区 分	戸 数 (戸)
全 壊	128,801
半 壊	269,659

2 東北3県(岩手県・宮城県・福島県)の被害概要

(1) 人的被害

区 分	人 数 (名)		
	岩手県	宮城県	福島県
死 者	4,673	9,535	1,606
行方不明者	1,151	1,302	211
負 傷 者	213	4,144	182

(注) 平成25年3月8日 警察庁緊急災害警備本部発表資料抜粋

(2) 建築物被害

区 分	家屋倒壊数 (棟)		
	岩手県	宮城県	福島県
計	24,916	238,134	93,853

(注) 1 平成25年3月8日 警察庁緊急災害警備本部発表資料抜粋

2 家屋倒壊数は住家のみの全壊及び半壊数である。

3 陸前高田市の被害概要

(1) 人的被害

項 目	人数 (名)	備 考
総 人 口	24,246	住基人口 ※平成 23 年 3 月 11 日現在
生 存 確 認 数	22,018	
死者 (震災分)	1,735	市民で身元が判明、又は死亡認定として死亡届の出された人数
〃 (その他)	464	病死、事故死など
行 方 不 明 者	14	安否確認要請のあった人数

(注) 平成 24 年 10 月 23 日 陸前高田市発表資料抜粋

(2) 被災戸数 (地震被害を除く)

区 分	戸 数 (戸)
全 壊	3,159
大 規 模 半 壊	97
半 壊	85
一 部 損 壊	27
計	3,368

(注) 平成 24 年 10 月 23 日 陸前高田市発表資料抜粋